

第 33 回麻布環境科学研究会 一般演題 7

学生が企画・運営した相模川での自然体験活動の実践

小此木 美咲¹, 大石 蓮², 村山 史世³

¹麻布大学 環境科学科 1年, ²麻布大学 環境科学科 2年,

³麻布大学 地域環境研究室 講師

1. はじめに

麻布大学環境教育研究会主催「親と子の自然環境セミナー 2013」の実践について報告する。

本事業は、2004年以來毎年1回相模原市内の親子を対象に、教員の指導のもと学生が主体的に企画・実施しており、本年度は10回目である。

本年度は昨年度までの経験のある学生の準備段階からの参加が困難であり、経験の乏しい1・2年生が中心となって準備を進めた。開催が近くなると、3・4年生および高校生の学習支援ボランティア（麻布大学附属渕野辺高校、神奈川県立城山高校、東京都立園芸高校から計8人）がスタッフとして参加した結果、スタッフは総勢31名となった。

以下、事業の目的、事前準備、事業内容、実施結果、成果と課題について報告する。

2. 事業の目的

本事業は「相模川の川原や生物・礫などについて、野外体験活動を通して親しむとともに、感じたことや見つけたことなどをフィールドノートに表現すること」を目的としている。

この目的のために、大学教員の指導のもと大学生が主体的にプログラムの企画・運営を行うとともに、高校生の学習支援ボランティアもスタッフに加わり、環境学習の「実践コミュニティ」を形成する。参加者は相模原市内の小学生とその保護者である。このように、大学教員、大学生、高校生、小学生およびその保護者と多様な主体の交流も本事業の特色である。

この交流を通して、大学生、高校生、小学生、保護者、そして大学教員それぞれの学びも期待している。

3. 事前準備

6月14日の第1回の学生スタッフ打ち合わせから数えて、ほぼ週1回のペースでプログラムの準備を進めた。7月20日と8月24日には現地の下見も行った。前日準備の8月24日には高校生の学習支援ボランティアも参加した。

広報としては、学生自身がチラシを作成し、約2万枚を相模原市内の小学校に配布した。

参加の受付・連絡等は麻布大学学術支援課が担当してくれた。

4. 事業内容

当日のプログラムは以下のようなものである。

8月25日(日) 於麻布大学大教室および相模川の大島川原

- ① 受付
- ② アイスブレイク「笹舟作りと石の歌」
- ③ 開講式
- ④ バスで相模川へ移動（車中で岩石と水生生物についての紙芝居）
- ⑤ 大島川原でのアクティビティ
 - ・ 笹舟レース
 - ・ 水質調査（透視度）
 - ・ ダムづくり
 - ・ 水生生物調査
 - ・ 自分だけの石を探そう
- ⑥ バスで麻布大学へ移動
- ⑦ 昼食・休憩・岩石洗浄
- ⑧ 活動の振り返り・フィールドノートづくりの説明

- ⑨ フィールドノートづくり
- ⑩ 水質調査デモンストレーション
- ⑪ 発表会
- ⑫ 閉講式

5. 実施結果

8月25日(日)朝は小雨が降っていたためプログラムの変更も準備していたが、天候も回復したため結果的にはプログラムどおりに事業を実施した。

参加者数は13組34人(内訳:小学生18人, 未就学児童1人, 大人15人)であり, スタッフは大学生

21人, 高校生8人, 教員1人, 市民1人の計31人であった。

事故もなく, 安全に事業は実施された。

6. 成果と課題

参加者のアンケート結果によると, 満足度は高い。

解散後に来年も参加すると声をかけてくれた小学生が多くいた。

閉講式後のスタッフの振り返りにおいても, 多くのスタッフが達成感を覚えていた。